



# 楓の誉

R5.2.28(第11号)  
文責: 瀧上 佳宏

## 三年生 本当ありがとう

本日で二月も終わり、明日からは令和四年の最終月です。三月三日(金)には、「令和四年度 卒業証書授与式」が挙行されます。ご承知のとおり、本校の開校後初の卒業式であり、本年度の三年生(以下、三年生)は栄えある「初代卒業生」として門出を迎えます。

私(校長)の三年生への思いは「感謝」、この言葉に尽きます。思い返せば、三年生は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策(以下、コロナ禍)のための全国一斉の臨時休校から中学校生活が始まりました。この三年間は、「コロナ禍で始まり、コロナ禍で終わる」と言っても過言ではないでしょう。日々の教育活動の制限はもとより、学校行事等も延期や中止、規模縮小を余儀なくされました。さらに二年進級時には、新設校開校に伴う転籍がありました。分離元中学校でのお別れと、新設校での新たな出会い。普通の中学生ならなくないことをたくさん経験し、その中で様々な「ストレス」にも遭遇したことでしょう。

しかし、三年生はそのストレスを、見事に自分たちの成長につなげてくれました。三年生は、あらゆる活動の場面で、新設校一期生としてのプライド、つまり「楓の誇り」を見せてくれました。そして、誇り得るに十分な実績、つまり、本だよりの表題でもある「楓の誉」をたくさん残してくれたと思います。

まずは学力。全国学力学習状況調査では、全

国平均・県平均を凌駕する結果を残しました。これには、二年時からの明らかな学力の伸びも認められ、たまたま優秀な生徒たちが集まっただけではありません。そのことは、学習発表会の発表内容やグランプリを獲得した壁新聞の秀逸さ、劇やプレゼン等での表現力の豊かさ等からも垣間見ることができました。

学校行事での活躍も凄まじいものがありました。二年分の熱い思いをぶつけた体育大会では、団長を中心に各団がまとまり、自分たちで「気付き、考え、行動する」場面を数多く目にするのができました。この学年が持つ「主体性」は、様々な教育活動を活性化する原動力だったと思います。また、前述した学習発表会等での活躍は、「熊本県に合志楓の森中あり」をアピールすることにもつながりました。開校二年目にして、本校が各方面から注目を浴びるようになってきたのは、三年生の貢献が大きいと思っています。



文科省著作の「中等教育資料」に掲載されたのと同じ場面の写真

あと一つ、生徒会活動にも言及せずに終われません。自分たちの手で一から造り上げた生徒会。その中で培われた「自治の精神」は、合志楓の森中の伝統として、脈々と受け継がれることでしょう。

私の自慢の生徒たちでした。正直、卒業してほしくないという気持ちもあります。なぜなら、この三年生とやら、どのような教育の取組においても、確実に成果を残せそうな気がするからです。とは言え、三年生の前には大きな未来が広がっています。一人一人の「夢の実現」が必ずや叶うことを祈りつつ、卒業へのお祝いと感謝の言葉としたいと思います。

## SNSの恐ろしさを改めて

新聞や地上波のニュースでも報道されていますので、ご存知の方も多いかもかもしれませんが、大手回転ずしチェーンの県内の店舗で、アルコールスプレーを商品に噴霧する迷惑行為の動画が、交流サイト(SNS)上に掲載される事件がありました。公共性の高いマスコミは、プライバシーや当事者が生徒(未成年)であることへの配慮もあつて、名前を含む個人情報や個人の特徴、在籍校(迷惑行為とは関係ない情報を含む)等まで晒される、目を覆いたくないような投稿に溢れています。

迷惑行為が事実であれば、その責任は当事者の生徒とその保護者が負わなければならず、何億円という損害賠償等の提訴を受けたとしても、それから逃げることはできません。ただし、私が恐ろしいと感じたのは、SNS上の悪意に満ちた投稿と、それを面白おかしく流布しようとするSNS利用者の多さです。

本校生もすでにスマホ等でこの出来事を知り、別のプラットフォーム上でつぶやいているかもしれない。もしそうであれば、その生徒は自分の行為のおかしさや愚かさに気が付いているのでしょうか？

あたかもこの事件に合わせたようになりましたが、本日(二十八日)の午後、本校では外部の講師をお招きし、情報モラル講話を行いました。お子さんに話の内容をお尋ねいただき、ご家庭でのネット社会との付き合い方の話題にしてください。また、別途ご案内する本校PTA主催の保護者向けYouTube配信(同講師)も、是非ご覧ください。



学校HPのQRコード